

EurekaXIV

六年制通信 No.10 令和8年6月12日(金)号

定期試験礼賛

お名前は忘れましたが、どこかの老先生が学生たちに「君たちは試験があつて嫌だろうけれど、やがて試験があつたころの幸せを実感する日が来るよ」と言っておられた記憶があります。私の今の感想は老先生と同じです。君たちにとって定期試験は必要だし、それは確かに幸せなことだと思います。

では、君たちに中間試験や期末試験が必要なのはなぜなのかを少し考えてみましょう。何かが必要な理由を考える時には、その何かがなかったらどうなるかを考えるのが一番わかりやすい方法です。例えば、三重中高の四大綱に「ルールを守る」がありますが、なぜこれが大切なのかは私たちが「ルールを守らない」とどうなるかを考えるとわかりますね。君たち、答えられますか。私たちが「ルールを守らない」とどうなるのですか。スポーツのルールも交通ルールも、それがなければ人が死にます。そうすると社会の秩序が失われ、私たちは生きにくくなるわけですね。ですから、私たちはルールを守って生きる必要があるわけです。ついでですから四大綱の「ベストを尽くす」「チームワークをつくる」「相手に敬意を持つ」についても、私たちがなぜこれらを教育の基本と位置づけているのかを考えてごらん下さい。

定期試験がなければどうなるか。いろいろ考えられると思いますが、私はまず「成長のカギはチャレンジである」ということから考えたいと思います。これ、英語でよく出てくるのは「成長」ではなく「成功」で日本語では「成功のカギ」と「の」を使いますが、英語では the key to success と to を使います。「成功へのカギ、成功に至るカギ」で、こちらの方が説得力がありますね。今の君たちには成長の方がいいですかね。いずれにしても、成長しようと思ったらチャレンジが必要だというわけです。そして、そのチャレンジの大きな機会が定期試験だと考えるべきだと思います。毎日たくさんの授業を受け、新しい知識がどんどん入ってきます。予習復習を経てそれらを自分のものにしていくわけですが、それがどの程度自分の身になっているかをチェックしてくれるのが定期試験なわけです。ありがたい機会と言えるでしょう。もう一つ、本当の意味でありがたいのは、定期試験は「反省の機会」を与えてくれることです。何が足らなかったのか、勉強時間が少なかった以外に何か原因はなかったか、メンタルの問題か、そもそも授業に臨む姿勢の問題か、様々に反省することが出来ます。そしてその反省と経験を次に活かすことが出来るわけです。定期試験は君たちに工夫の余地を残してくれるのです。定期試験がもしなかったら、あつたとしてももし一度だけだったら、それができません。ちゃんと定期的実施されるからこそ自分の成長のためにチャレン

ジができるのです。中学入学から 20 回以上あるのですから、幸せだと思いませんか。

私はいまだかつて全科目満点という生徒に会ったことがないので、定期試験のたびに誰もが何らかの反省をすることが出来ますね。今回 80 点取ったから次も同じように勉強すればいい、などと考えるはいけません。前回自分としてはうまくいったから、現状維持を目標にしようとするのはよくないのです。現状維持は、相対的には衰退だと考えるべきです。君以外の人は前回よりも頑張るのですから、当然君は相対的に落ちていきます。ですから、現状に満足してはいけないのです。甘んじてはいけないのです。マザー・テレサの言葉を思い出してごらん。思考から言葉、言葉から行動、行動から習慣、習慣から性格、性格から運命へと一直線につながるのでしたね。ですから私たちの運命は正しい思考から始まることを知らなければいけません。つまり最初の「思考」に気をつけ、「言葉」「行動」を大切にしなければならないのです。君たちが定期試験をどう考えるかが大切です。自分にとって定期試験とはどういう意味があるのか、どんな価値があるのか、自分にとって何が得られる場所なのか、その場所を精一杯自分は活用しているのか、それらを正しく考え、行動に移しなさい。頑張って！

先週号の答え ① 2 倍以上の→倍以上の ② 死亡した→死んだ：「死亡した」「死去した」は人間に用いる。③ 犯す→冒す：「犯す」は法律などを破ること。「冒す」はあえて行うこと。④ 宅急便→宅配便：「宅急便」はヤマト運輸の登録商標。ちなみに映画「魔女の宅急便」はヤマト運輸がスポンサーなのでした。⑤ 絆が深まった→絆が強まった ⑥ 同級生→同学年 ⑦ 花だらけだった→花でいっぱいだった：「だらけ」は「血だらけ」「借金だらけ」など好ましくないことに使うのが普通。これが一番の難問だったのではないのでしょうか。

今週のおすすめ

・似鳥 鶏 『叙述トリック短編集』（講談社タイガ）

面白いペンネームですね。「にたどりけい」さんだそうです。この人は多作だと思いますが、『育休刑事』くらいしか読んでいませんでした。

この短編集は冒頭で「この短編集は『叙述トリック短編集』です。収録されている短編にはすべて叙述トリックが使われていますので、騙されぬよう慎重にお読みくださいませ」とあります。潔いですね。しかも、叙述トリックとはどういうものかといった解説が、すぐ後に書かれています。「あとがき」の最後は「というわけで、お付き合いいただきましてまことにありがとうございました。またこういうふざけた企画でお会いできれば嬉しいです。それでは。」です。何かこれも潔いですね。

六作品が収められています。一番笑ったのが最初の「ちゃんと流す神様」でした。これはひっかかりました。途中、そうかな、そういうことかなと思わなくもなかったのですが、似鳥さんの巧妙な叙述トリックにまんまと騙されました。これ、書いていて楽しかったらうな。次の「背中合わせの恋人」も好きです。君たちにはこっちの方が読んでほしいかな。最後に近づくにつれ、お願いハッピーエンドにしてあげてと思ってしまいます。一応、これもきっちり騙されましたが、傷は浅かったというところかな。とにかく一度手に取ってみて下さい。こんな手法もあるのかと感心しますよ。

BGM は The Three Degrees の *When Will I See You Again* でした…。